

## ASEAN 中心性を客観的に評価する

浜中 慎太郎

アジア経済研究所

アジア政経学会

2026 年 6 月

### 要旨

ASEAN 中心性とは、ASEAN 周辺に焦点を当てた国際関係および制度に関する文献の中で出現した用語である。ASEAN がより広範な地域の政治・経済制度の構築において中心的な役割を果たしている（果たすべきである）という考えを指す。しかしながら既存研究は、ASEAN が中心性を有しているか否か十分検証できていない。既存研究は三つに分けられる。第一は規範的なもので、ASEAN が中心性を有する「べき」だという政策論で、純粋な学術研究でない場合が多い。第二は構成主義の学派に属する見解であり、ASEAN 中心性は ASEAN 独特の「非西洋的」な概念であり、ASEAN ウェイの延長線上で理解しようというものである。第三は実証的なもので、多くの場合 ASEAN を真ん中に置いた同心円上の「メンバーシップの図」を見せることで ASEAN 中心性が存在していると言い切る。しかし、同心円の中心に ASEAN を置いているのは分析者本人であり、客観性に欠ける。

ASEAN 中心性の議論が発散するのには、二つの根源的な問題がある。第一に中心性の概念が曖昧であること、第二に中心性評価の適切な方法が不在であることである。本研究は、理論的観点からは、曖昧な概念である「中心性」を関連する二つの概念に分ける。第一は「コア」であり、これは「周辺」と対比される概念である。第二は「ハブ」であり、これは「スポーク」と対比される概念である。これにより、「ASEAN が中心性を有する」という言説は、「ASEAN がコアであり他国が周辺的な位置づけとなっている」と「ASEAN がハブであり他国がスポーク的な位置づけとなっている」の二つに分解できる。実証的観点からは、比較分析の有用性を主張する。たとえ中心性の水準を測定できないとしても、ASEAN が地域の制度構築においてコアあるいはハブとしての地位を占めているかどうかを、他の制度と比較することでより適切に評価することができる。